

# 5. 総合判定

基礎地盤の判定は、地形の判別および危険因子を考慮し算出した『**最大沈下量**』、『**最大傾斜角**』および『**許容鉛直支持力度**』にて判断する。

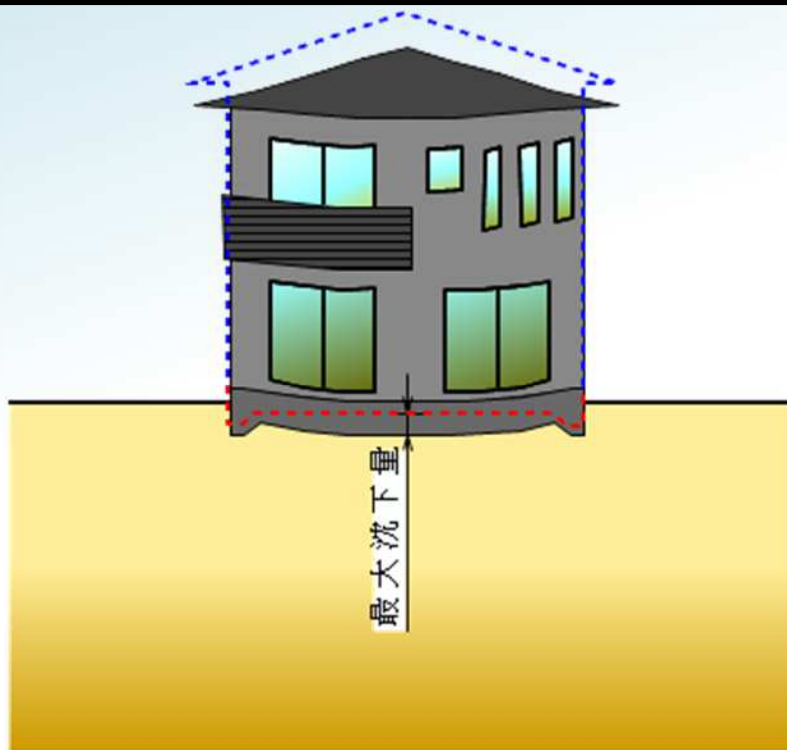
最大沈下量、最大傾斜角、許容鉛直支持力度すべてにおいて、基準値に対し安全側であると判断される場合は、無補強判定とし、いずれか一つでも危険側と判断される場合は、基礎補強または地盤補強と判定する。

ただし、建物の荷重状況や基礎の剛性等を考慮した上で、判定員の判断により判定結果を変更する場合には、判定理由を地盤判定書に記載し、技術責任者の承認を受けることとする。

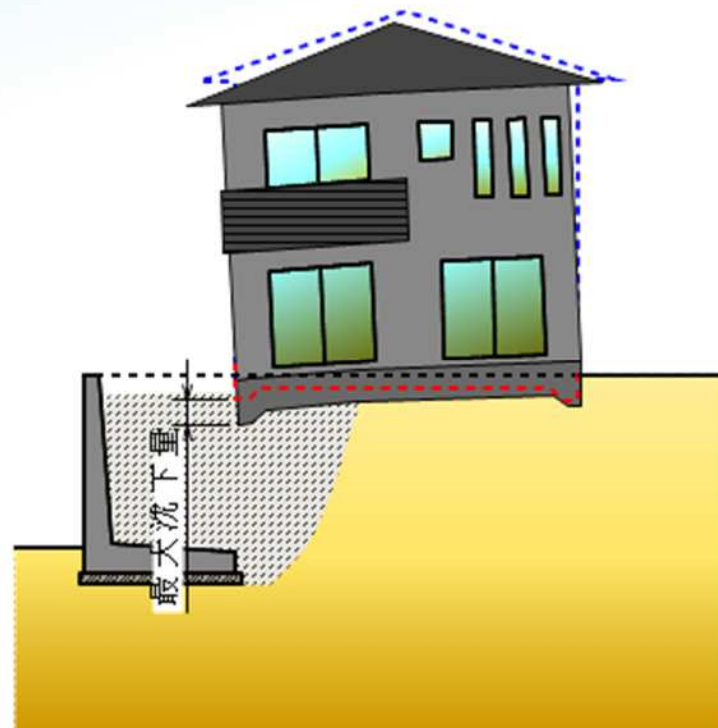
# 5.1 最大沈下量判定

最大沈下量は、各測点毎に計算した**圧縮沈下量**と**圧密沈下量**の**総和**のうち、**最大**となる部分の**沈下量**をいう。

沈下量判定の際は、許容最大沈下量に対し最大沈下量の大小関係によって判定する。



(a)最大沈下量が中央部となるケース



(b)最大沈下量が角部となるケース

## 5.2 最大傾斜角判定

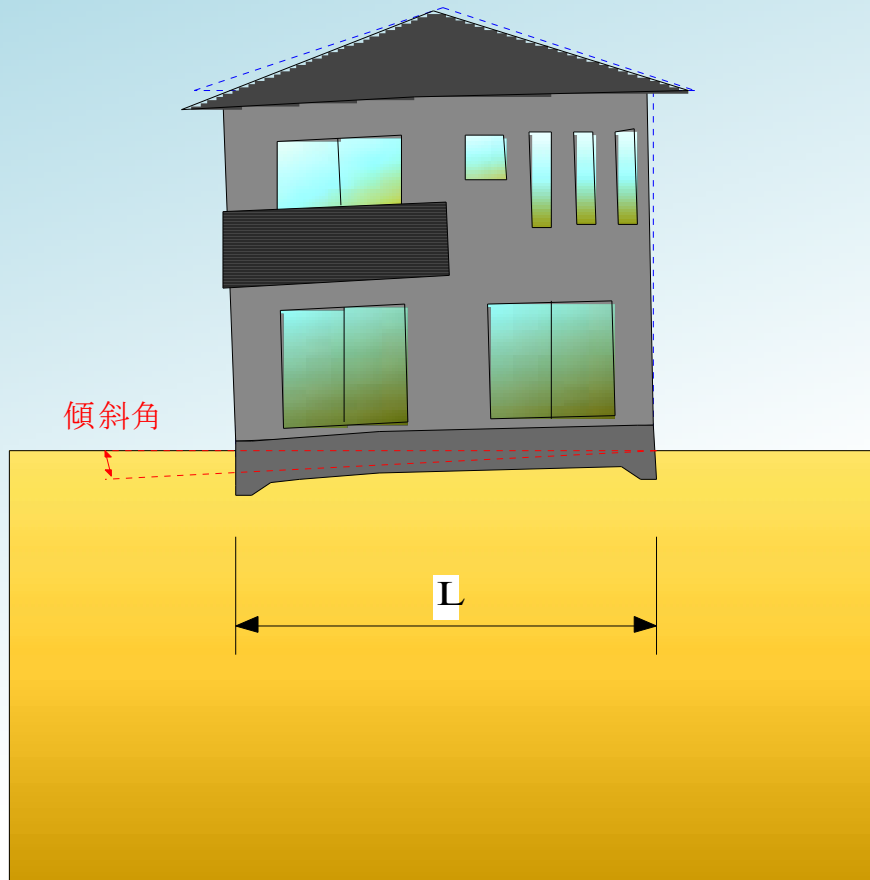
最大傾斜角は、計画建物の**4隅**における**沈下量**から算出した**傾斜角**の内、**最大値**を基本とする。

ただし、例外として**不均質地盤**の場合、基礎に変形角が生じる場合があるため、傾斜角を算出する2点間の距離は、通常のLではなく**L/2**とする。

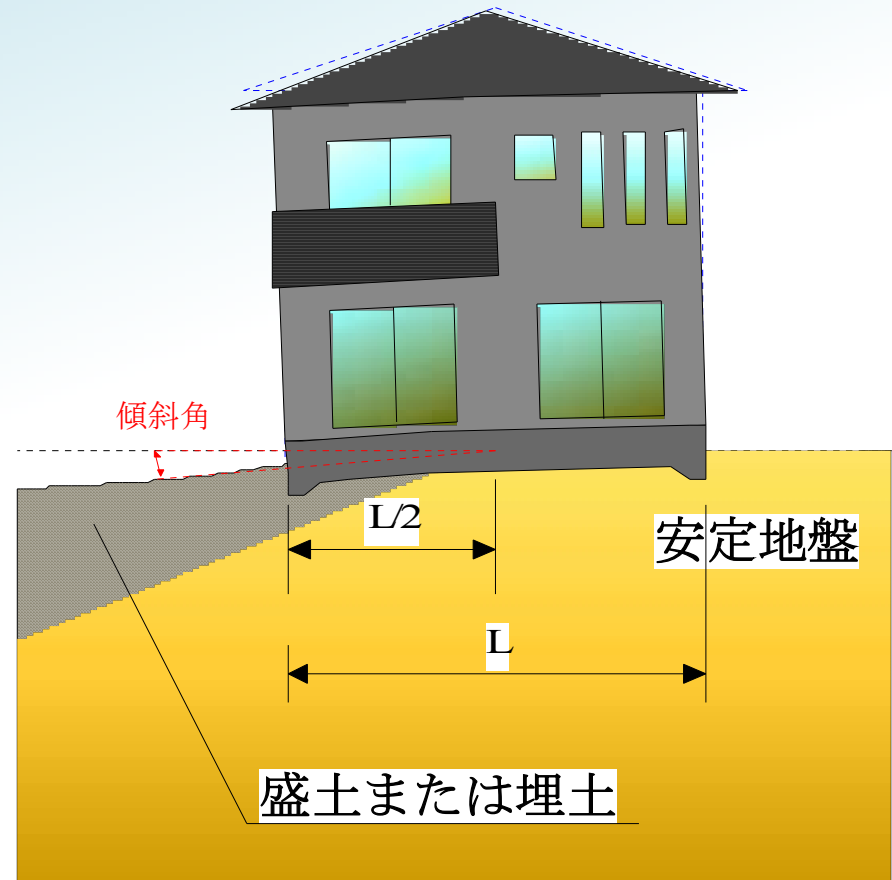
また、不均質地盤且つ、**2点間の距離Lが非常に長い場合** ( $L \geq 15\text{m}$ )、L/2では危険側の判定となるため、部分的な盛土や埋土の範囲を推定し、**適切な2点間の距離L'**としなければならない。

最大傾斜角判定の際は、許容最大傾斜角に対し最大傾斜角の大小関係によって判定する。

# 5.2 最大傾斜角判定



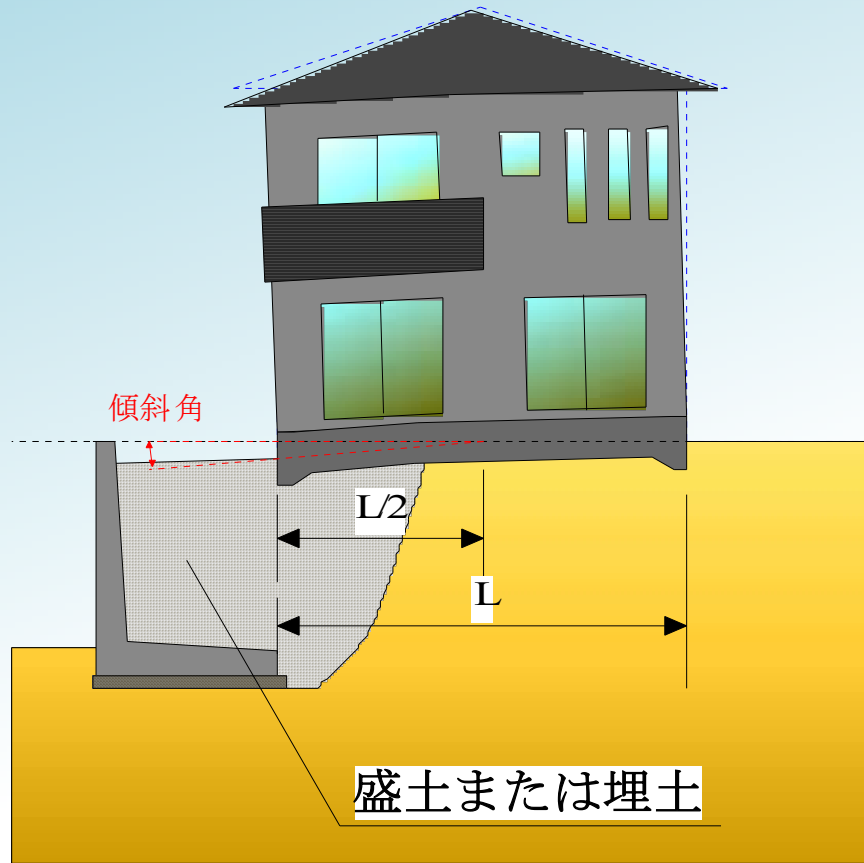
(a) 自然地盤



切土と盛土または埋土が介在

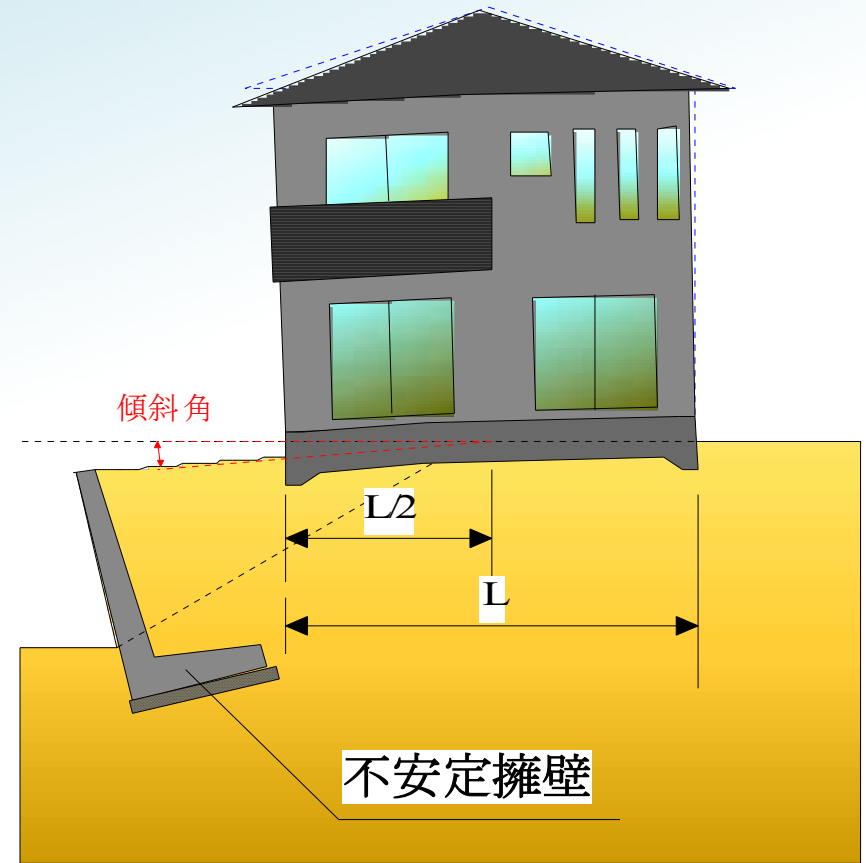
(b-1) 不均質地盤

# 5.2 最大傾斜角判定



擁壁の埋め戻し

(b-2)不均質地盤



不安定擁壁

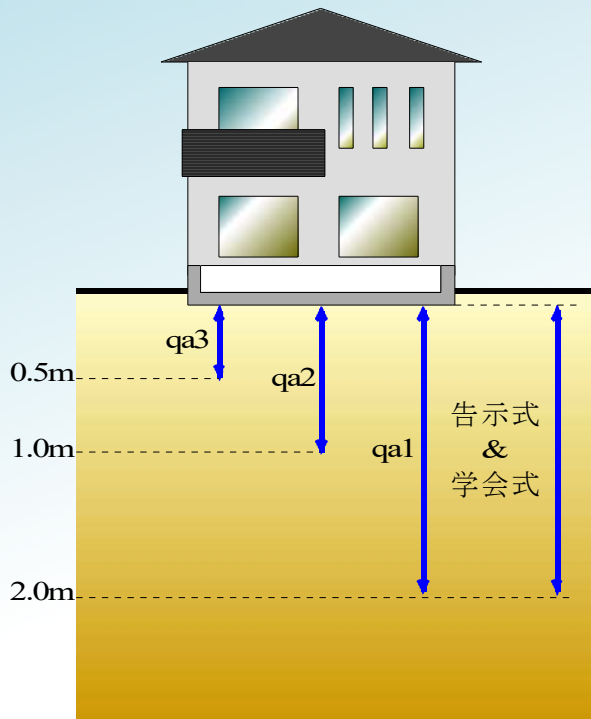
(b-3)不均質地盤

## 5.2 最大傾斜角判定



(c) 建物が大きい場合の不均質地盤

# 5.3 支持力度判定



支持力度判定は、

「4.3許容鉛直支持力度の検討」より算出した許容鉛直支持力度 $qa$ と基礎底面に作用する設計接地圧 $\sigma_e$ との大小関係により判定する。